聖　鐘

日本聖公会東京聖三一教会
〒155－0032　東京都世田谷区代沢２－10－11
TEL　3421－3646　FAX　3414－9023
URL　trinity.web.infoseek.co.jp
牧師　司祭　長谷川正昭

旅人の神学について

司祭ヨナタン　長谷川正昭

神戸の松蔭女子学院大学で、キリスト教概説を教えていたとき、アブラハムの生涯のなかの二つの大きな事件を挙げなさいという試験問題を出したら、生まれ故郷ハランを出て、パレスチナに移住したことと、わが子イサクを生贄として神に捧げようとした二つを答えなければならないのに、まともな答案がほとんどなかったのには失望しました。そこで、次の時間に丁寧に再び教えなければならなかったのですが、まるで日曜学校の生徒と対峙しているような気がしました。

「沖に漕ぎ出し、網を下ろしなさい」というのは昨年の宣教150周年の標語でしたが、ペテロのように、「お言葉ですから網を下ろしてみましょう」という、未知のものに挑戦する気概と謙遜な信仰を見失ったことが現在の教会の低迷を招いたと言わざるを得ないと思います。

私たちは自分の馴れ親しんだ考え方や感じ方の枠組みにどうしても縛られがちです。

しかし、私たちは自らの信仰に照らして、常にそこから出て自分の世界から外の世界へと旅立っていかなければならないと思います。と言うよりも、私たちの信じる神が人間をそのような旅立ちに駆り立ててやまない存在なのだと思います。

キリスト教の伝統的な考え方である「旅人の神学」というのはまさにそういう教えなのです。このことを木田献一という旧約学者が大変難しい表現で言っています。

「聖なる神は自己完結的な世界と、そこに安住しようとする人間の在り方を否定し、この否定を媒介として、人間を創造的な主体へと呼び出される。」

キリスト教は啓示宗教であると言われていますが、啓示に直面した人間はみなこのような否定を媒介としなければならなくなるので、大変過酷な、ときには悲劇的な生涯を送ることになります。旧約の預言者と呼ばれる人々の生涯はみなそのようなものでした。

イザヤにしてもエレミヤにしてもエゼキエルにしても、その召命物語を読むと共通していることは、神の呼びかけに対して「そんなだいそれた務めは私にはできません」と尻込みしています。しかし、最後にはしぶしぶ召命に応えようとするところも共通しています。

最初に書いたアブラハムは預言者ではありませんが、「旅人の神学」をもっともよく体現した人物でしょう。

「アブラハムは自分が財産として受け継ぐことになる土地に出ていくように召しだされるとこれに聞き従い、行き先も知らずに出発した。」（ヘブライ人への手紙11-8）

このような気概と信仰が現代には払底しているのです。あるのは原理主義的な党派イデオロギーのようなものだけではないでしょうか。

牧師動静

10月
- 9日(金)庭プロジェクト
- 11日(日)ストーゼンバック聖職候補生奨励
- 13日(火)芝公園再開発教区側小委員会
- 17日(土)故小松和子姉埋葬式(多磨霊園)
- 18日(日)倉沢一太郎聖職候補生奨励
- 25日(日)チャリテイ・バザー

11月
- 1日(日)商栄会バザー、信徒代議員選出検討委員会
- 2日(月)教区墓地礼拝(谷中墓地)
- 3日(火)教区墓地礼拝(小平墓地、多摩墓地)
- 7日(土)故児玉初枝姉埋葬式(上川霊園)
- 13日(金)聖書を読む夕
- 14日(土)礼拝勉強会
- 17日(火)礼拝担当者会
- 22日(日)千住キリスト教会委員会
- 23日(月)第109(定期)教区会
- 26日(木)佐藤明子姉見舞い(聖母病院)
- 28日(土)山手グループ光の礼拝(聖十字教会)
- 29日(日)宣教150周年を覚える黙想会

12月
- 10日(木)鶴巻集会
- 11日(金)聖書を読む夕
- 12日(土)予算委員会
- 13日(日)ファミリーコンサート
- 16日(水)代沢こども文庫クリスマス会、山手グループ教役者会 聖職試験公開説教(卓志雄執事)
- 20日(日)ぶどうの木ページェント
- 24日(木)キャロリング、イブ礼拝、深夜ミサ
- 25日(金)降誕日礼拝、主教巡回、洗礼式、堅信式
- 27日(日)BSA　2010年度年忘れ会

1月
- 12日(火)会計監査
- 13日(水)山手グループ教役者新年会
- 14日(木)受聖餐者総会公示
- 16日(土)教区月島問題説明会
- 17日(日)聖アンデレ教会記念式
- 20日(水)総務会
- 22日(金)山手グループ1月教役者会(聖十字教会)
- 23日(土)壮年会総会、新年会
- 24日(日)千住キリスト教会委員会
- 29日(金)総務会新旧引き継ぎ会
- 30日(土)聖職按手式(卓志雄司祭按手)
- 31日(日)「陽だまり」の会、BSA例会

2月
- 2日(火)被献日礼拝
- 3日(水)谷中墓地委員会
- 7日(日)働きグループ家庭集会打ち合わせ
- 12日(金)聖書を読む夕「ヨブ記輪読会」
- 14日(日)受聖餐者総会

(定期プログラムは外してあります)

信徒動静

12月
- 25日(日)　堅信　セシリヤ　桜井奈央さん
- 洗礼　ラファエラ　久慈彩月さん

大斎研修プログラム

2010年度は「宗教を問う」というテーマで講話と証しをしていただきます。

【証　し】菅原久平兄 大森万里子姉
【講話Ⅰ】長谷川正昭司祭
【講話Ⅱ】マタタ神父（オリエンス宗教研究所所長）
【講話Ⅲ】蓮見博昭教授（恵泉女学園大学名誉教授）

冬季暖房について

信徒総会でお知らせしましたが光熱費削減のためのテストを主日に実施しています。礼拝堂の暖房能力を従来より落としますので室温が少し低くなります。ご承知の上対応をお願いします。夏季の冷房時に関してもテストを行う可能性があります。

メンテナンス委員

ホームページ・リニューアル

2月14日よりホームページが新しくなりました。三一教会を多くの方に知って頂くことと教会員の方へのお知らせなども兼ねています。皆様のご意見、ご希望をホームページ担当までお寄せ下さい。

2010年度受聖餐者総会

新年度宣教・司牧方針・予算案など原案通り承認

東京聖三一教会の2010年度受聖餐者総会(議長・長谷川正昭司祭)は、2月14日の主日礼拝後、受聖餐者77人(委任状90人)が参加して開かれた。提案された09年度教務報告、10年度宣教・司牧方針および09年度決算案、総額2050万円に上る10年度予算案など5議案を原案通り可決、承認、新年度の教会運営、教会活動がスタートした。

冒頭、長谷川司祭は、主題＝「神の家族としての成長、標語＝「宣教150周年以降に生きる」聖句＝「一粒の麦が地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ」(ヨハネ12・24)とするこのような10年度の宣教・司牧方針を掲げ、要旨次のような方針を提示した。

1、救いの喜びの再確認

★聖公会の宣教150周年の時代に生きる私たちは、改めて宣教と言う切実な課題を考えたい。

宣教を導く聖句として掲げた「一粒の麦」に基づく果敢な活動を展開する必要が求められている。ヨハネ福音書が言う「死ぬ」の意味は比喩的なものであるが、「多くの実を結ぶ」ための犠牲と献身を指している。これは古臭い道徳的な勧めをしているようだが、大きな目標を達成するためには必ず「犠牲と献身」を求められるのは不変の真理である。このような言葉に古めかしさを感じること自体、近代的教育、自我実現を至上目的とする近代思想の弊害であることに気付くべきだ。

★11月の教区教役者会での財政委員長からの報告によると、月約献金は現状維持だが、感謝献金が6割程度に落ち込んでいることに注目された。この現象は教会の信仰の中に喜びが見失われつつあることが証明されていると言わざるを得ない。喜びのない所にいくら感謝献金を奨励しても空しい努力になるばかりである。

佐藤優という元外務官僚(日基教団信徒)は、現代の教会が不振を極めているのは、教会では救いの喜びを感じられなくなったためではないかと言っている。このことは世界の先進国の教会すべてに当てはまる現象と言える。私たちはどこで救いの喜びを再確認出来ているのだろうか。教会は礼拝共同体、宣教共同体である。礼拝と宣教の中に救いと喜びがなければそれはいずれも形骸化した、活力のないものになることは言うまでもない。生き生きとして充実した、そして美しい礼拝の生活の中に救いの喜びがあり、その喜びの分かち合いが宣教でなければならない。礼拝の中でも特に聖餐式は、私たちが一つになって捧げる感謝、賛美の宴であり、キリストの十字架の「記念」である。

★「記念」と言うのは聖餐式を理解する鍵となる。「記念」のギリシャ語はアナムネーシスと言うが、その意味は「想起」「思い出」のことであり、イエスが神の子、メシア・キリストであることを思い起こすことである。初代教会時代から神学的にイエス・キリストを巡って不一致、論争があった。聖書の編纂と信仰箇条(ニケヤ信経、使徒信経など)の採択は、それを信仰的に解釈する目的でなされたものだ。

このアナムネーシスは聖霊の働きと密接な関係がある。或る人の言葉が、その時に分からなくとも後になって「あぁ、あの時の言葉はこういう意味だったのか」と気付くことがある。この気付きは理性の働きや、記憶力の問題でもない。イエスの弟子たちは、イエスの生前の言葉が分からなくても死後になって本当の意味を理解した。この気付きは聖霊の働きによるものである。現代人がこの気付きの力が著しく弱められている理由は、理性偏重の考え方に私たち自身が骨の髄まで影響されているからである。換言すれば科学的思考による合理精神と世俗化に教会が毒されているからである。

★聖公会は昔から3つのことを尊重してきた。理性、伝統、聖書である。この3つのことを尊重するのは聖公会以外にないと考えられる。ところが科学に対する信仰に疑問が生じるようになり、その結果、理性に対する信頼も揺らぎ始めたのが、ポストモダンと呼ばれる現代の状況だ。理性を超えたもの、その枠からはみ出したものは、理に合わないが故に排除すべきもの、人間を迷妄に導くものというのがこれまでの一般常識であり、近代的通念でもあった。しかし、今日のような考え方に多くの疑問が出されるようになったのである。このことを別な言い方をすれば、心的エネルギーの果たす役割に改めてスポットを当てられるようになったという事である。これは単なる観念論とは次元の違う問題だ。理性的なものであれ、非合理的な問題であれ、私たちは今迄以上に心の深いところの声に耳を傾けなければならない時代になった。ここで言う「心の深い声」というのは、身体の声という意味も含まれる。

身体性ということが、教会では最も等閑に付されてきた。プロテスタンティズムの最大の弱点はこれである。教会にとってこれは致命的と言っても過言ではない。なぜならそれこそ救いの喜びの再確認を困難にしている元凶だからだ。即ち聖霊の働きを見失った教会の現実そのものだからである。

★救いの喜びの再確認に果たす聖霊の働きについて、神学的に教えているJVティラー主教の『仲介者なる神』(1974年)という著作にこうある。

「キリスト教の歴史に著しい宣教の主役は聖霊である。聖霊がこの大事業全体の指揮者なのである。この事実は一世紀のキリスト者にとっては極めて明白なことであったが、現代ではほとんど忘れ去られている。それゆえに我々は活力と方向感覚を失い、神の主導権を変えて人間の企業にしてしまった。「すべて私次第だ」という態度が、現代における我々の宣教を実践面においても神学面においても、悪魔に引き渡したのだ」

「しかし、キリスト教の信仰においては聖霊なしでは我々はどこにも行けないのだ、という伝統的主張を敬虔に繰り返し語りながら、それにもかかわらず我々は人の手で作ったプログラムを推し進めているように見える。私は或る委員会の事務処理が、出席者たちが神の御霊の到来をまだ待機中であるという理由で延期されたという事例を最近は聞いたことがない。財源がないからやめにしたという計画は幾つも知っているが、聖霊の賜物に欠けるからやめにしたというのは聞かない。実際、我々が資源というとき、人間的な富、人間的な技能、人間的な性格以外のものはほとんど全く思い浮かばない。我々は神について(名も知れず内面で働く神、真っ只中にあって、超えている方について)語り始めなければならないのはまさにこの地点においてなのである。

2、救いの喜びの再確認に基づく具体的指針

★キリスト教宣教における聖霊の役割について、明快に説いた著作を紹介したが、私たちはこのような理解のもとに教会の宣教を考えていかなければならない。初代教会に働いた聖霊を現代において富が蘇らせる聖霊運動(カリスマ運動)もあるが、しかし私たちはもっと虚心坦懐に救いの喜びの再確認を果たしていくべきだろう。私たちの教会の中に「癒し、癒され、赦し赦される」交わりを回復することが求められている。

★昨年の総会で①インターネット活用による宣教の充実②地域集会の充実③壮年会、婦人会という枠組みを超えた働きーの三つの方針を挙げた。うち③だけはいまだ具体的な働きになっていない。いずれにせよ時代の変革期に当たり私たちは従来の価値観や通念に捉われることなく自由で清新な動きを展開していくべきだろう。

★今年もこれらの指針をさらに具体的活動として展開していく方針である。そして①のインターネットの活用について、話し合いの過程の中で、広報活動の重要性が改めて浮上してきました。今年度は教会委員会、宣教委員会等についても広報活動を強化していきたい。

②の地域集会、出前家庭集会については、すでに具体的動きが始まっているが、宣教における家庭の役割、福音伝道はまず家庭からということをまず申し上げたい。『使徒言行録』を見ても福音を伝える原点は家庭にあった。教会制度が整備されていく中で、家庭の役割は次第に教会の建物にとって代わられるようになったが、「家の教会」という初代教会の生き生きとした福音伝道の姿をいま一度見直すべきだと思う。

◆2009年度収支決算

09年度は当初から192万の赤字予算編成でスタートしたが、結局、106万円の赤字決算となった。教会収入の柱である献金額は、信施金、月約献金、イースター献金、クリスマス献金など軒並み予算額を僅かに下回り、普通献金総額では予算額の98・5%に止まった。しかし、故人からの多額の献金もあって献金総額では4654万円と予算を大幅に上回る達成率214・4%となった。全体の収入総額は5169万円。

一方、支出面では女性トイレ補修工事約200万円電気工事63万円など多額出費もあり、結局、支出総額は5275万円となり、差し引き106万円の赤字を計上した。

◆2010年度収支予算

支出総額は2655万円に対し、収入見込み額は2408万

円で、差し引き246万円の赤字予算編成となった。これは厳しい会計事情ながら予算請求を可能な限り承認した事、さらに前年同様、宣教費の中に予備費として10万円計上したこと、などが理由。主な支出項目は次の通り。

（単位千円）

＊祭壇費　324
＊宣教関連費　3730
・子供文庫　35
・集会会合費　101
・研修費　58
・聖職関連費　80
・クリスマス・イースター　90
・三映画会　25
・受洗者祝い　40
・宣教活動予備費　100
＊日曜学校費　222
＊事務スタッフ費　120
＊図書印刷費　128
＊教区費分担金　15424

◆09年度バザー収益献金先
収益総額131万円の70％92万円を次の箇所に献金した。

（単位万円）

・アジア学院　20万円
・アルディナウペポ　20万円
・特別献金枠　10万円
・メルヘンコイノニア　10万円
・エリザベスサンダースホーム
山友会　希望の家　浅草ヨハネ日曜食堂に　各8万円

◆10年度教会委員

小笠原汎　加藤啓子
小林幸子　滝　博邦
中野恵美子　東　理夫
本多峰子　湯田正範
江川　純　加藤　望
川嵜葉子　川村啓三
後藤晴美　高橋　牧
村上道夫　森田信也

◆教区会代議員

小笠原汎　加藤啓子
本多峰子

なお、代議員は2011年度から信徒の直接選挙で選出することと議決した。

◆事務スタッフ

菊池英男　名倉　敞
西澤功宰　西依　彩

◆過去5年間受聖餐者推移数

09年　214人
08年　224
07年　223
06年　229
05年　259

◆過去5年間の主日礼拝平均出席者および陪餐者数

	出席者	陪餐者
09年	88人	80人
08年	89	80
07年	90	81
06年	92	83
05年	100	98

（総会関係記事文責・松田義夫）

「陽だまりの会」について

久野早苗

今年1月31日(日)婦人有志の呼びかけで第一回の集まりを持ちました。これは一昨年の壮年会新年会で「婦人のグループがないのは連携しにくい」と男性からの提案があったのがこの呼びかけの発端でした。三教会では婦人会を解消して以来、教会の半数以上になる女性の方たちの、年代を超えたグループがないのはおかしいという声もあり、女性の有志の方達に計ったところ婦人のグループを立ち上げてはとの話になりました。そこで2回準備会を開き「陽だまりの会」という名称で出発することとなりました。

「陽だまり」とは、ポカポカと暖かく、気持もやさしくお互いにお話合いが出来、素直な気持ちで礼拝を守り信仰を高められたら、との希望を持っての命名です。三教会では年齢の高い方たちが多くなってきていますが、出来る範囲で教会の一員であることを考えてやってゆくつもりです。今のところ奇数月の第4日曜日に集まることができれば幸せと思っております。いろいろと励ましあいながら教会生活が送れますよう期待しています。よろしくお願いします。

BSAにご入会のお願い

BSA会長　砂田郁郎

日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)の会長を長年やってこられた寺内安彦氏の辞任の後を受け、このほど私が就任しました。よろしくお願いします。BSAの組織は「男子青少年が教会の良きメンバーとなってもらえるよう手助けする」聖公会の全国組織で、13の教会支部がそれぞれ独自の活動をしています。

本部(東京教区会館内)は各支部の活動プログラムを助け連絡調整を行い、機関紙(VISION)の発行、研修行事、信徒のための講座、コンサート等、BSA会員と信徒全体が楽しみな

がら学び、喜びを共有出来るように計画を立てています。

三三教会支部は毎月最終日曜日の礼拝後にトリニティーハウスで例会を開き、「祈祷と奉仕」「一人が一人を」の心で教会と宣教の働きのためのミーティングをしています。BSA会員には正会員と賛助会員があり、賛助会員はBSAの趣旨に賛同していただける方であれば男女を問わずどなたでも入会いただけますので皆様のご入会をお待ちしています。又、年に数回愛餐会でBSA会員による昼食の奉仕を行っています。

門前から拡がる バザーの恵み

高橋　牧

「ひろげよう出会いとふれあい」をテーマに開催された2009年のバザーは、世の中や教会の状況が様々に変化する中で「今の私達にできるバザーとは?」ということを見つめ直すところからのスタートでした。人手や労力の点でバザーの存続すら危ぶむ声もありましたが、事前のアンケート調査で、大半の方が「協働の喜びと交わりを教会内外で分かち合い、活力を得たい」と、気持ちの上では大きな期待を持っていることを知りました。皆様の心身の負担を軽減しつつ、決して後ろ向きにはならない、そんなバザーを目指しましたが、具体的な試みや成果等については、受聖餐者総会資料の中でのバザー委員長の報告をご参照ください。

当日、朝からの雨は開門と同時に奇跡的に上がり、恒例のバンド演奏、オルガンの調べに乗せた絵本の読み聞かせ、定番売り場にミネストローネ・ピザ等の新規売り場の勢いも加わり、穏やかな秋の賑わいが教会に溢れました。直前の雨対応配置にも皆様がスムーズに対応し、制約されたスペースの中で奮闘してくださったことに感謝です。

ここ数年、私は開始時の開門と食券・福引券販売を担当していますが、これは実はとてもおいしいポジションです。開門前から並ばれる方々、前週にポスティングした案内チラシを握りしめて来る方、習いたての足し算で計算を手伝ってくれる子供達などの様々な表情・思いに触れるとき、不思議な喜びが湧いてきます。こういう方々によって教会が支えられていることを、まさに「出会い、ふれあい」の最前線でダイレクトに感じられる瞬間です。バザーをきっかけに、代沢こども文庫やクリスマスコンサート、イブ礼拝に来られた方も結構いらしたとのこと。バザーの成果を一日限りのものに終わらせないよう、これらの出会いを大切に繋げ、拡げていく具体的な努力と工夫を続けることの必要性を感じます。

一方で、課題を抱えつつも、準備の中で知恵を出し合い試行錯誤する過程は、単なる交わりというだけでなく、教会の向かう先を共に模索する時のように感じました。バザーの働き自体は、全ての教会員に強要されるものでは決してありませんが、それを通して与えられる恵みを教会全体で共有できれば、次につながる大きな力になるのだと思います。

今後も、景気の低迷による献品不足の問題や人的リソースの観点から、バザーへの同じような議論が持ち上がるかもしれません。でも、収益の大半を対外的支援のために献げられること、そこに教会員のみならず近隣・外部の方々の力も結び合わせられることを思うと、教会の果たすバザーの意義は本当に大きいと思います。百万円を超える収益を一日で生み出せる三三教会は、本当に恵まれた教会ですが、バザーの成果は収益の大小では決して量れないことを、改めて実感しています。地域社会の中で、どんな形でもバザーを続けてゆけば、そこには変わらない恵みが与えられるのだということを、感じ合っていければと思います。バザー副委員長という任により、私自身が多くの出会いとふれあい、活力を皆様から頂けたことに、今改めて感謝しています。

まじわり
「愛されるよりも愛することを」

鈴木まりさん

幼いころ、毎朝仏壇に読経する祖母のかたわらに座っていたまりさん。そんな普通の家庭に育った彼女は、姉と一緒に幼稚園から高校までカトリック系の学校に通い、日常的に主の祈り、賛美歌を口にした。シスターの顔を見たくて「後ろからベールを取ろうとして厳しく叱られた」というお転婆の一面も。ともあれこの時期、まりさんはすでに神と出会っていたことになる。

大学を出て社会人となり、聖公会牧師と出会ったことが彼女の生き方を変えた。東京神学院礼拝堂で結婚の挙式、その2年後に受洗、そして1991年三教会で堅信を受けた。

2年半前からオーストラリアに留学中の娘、なな乃さんが3歳のころ三教会の日曜学校に通い、千葉県房総・保田でのサマーキャンプを懐かしく思い出すという。その後、鎌倉の実家に転居したため、三教会在籍のまま暫く離れた。

まりさんは昨年から盲導犬の訓練センターでボランティアをしている。「70匹」もの研修犬が約1年かけて立派な盲導犬に成長する姿は我が子のように嬉しいものです」

ただこの夏から肩を痛めて(四十肩?五十肩?)休止中だというが、早く復帰したくてうずうずしている。

教会では手作り雑貨のグループに属し、チャリティーバザーの手伝い、オルターギルドの奉仕など、働き手の一人として欠かせない存在となっている。

「不慣れな私への温かい気配りと、笑顔に支えられ感謝するばかりです。『愛されるよりは愛することを』子供のころから心に留めているこの言葉のお祈りが、いつも励みになっています」

まりさんは獣医師めざして留学中のなな乃さんが、半年に一度帰国するのを夫(CMディレクター)、それに、溺愛中の愛犬と首を長くして待つ日々。そして肩の治療のための通院、実家の両親の手伝いに明け暮れている。

編集子

リレートーク
ハラスメント防止に向けて

小林幸子

東京教区にハラスメント防止委員会があるのをご存知でしょうか?2009年3月の教区会で、「ハラスメント防止宣言」とハラスメント防止委員会の設立が決議されました。教会のアッシャー席に、防止委員会が作成した「ハラスメントのない教会に向けて」という小冊子が置いてあります。みなさん是非手に持ちご一読ください。

ハラスメントって何でしょう?素朴な質問に対して、「個人の尊厳を傷つけ、人権を侵害する、身体的、性的、心理的暴力です」と書かれています。また、「ハラスメントとは、嫌がらせやいじめを意味しますが、民族、国籍、信条、社会的地位、年齢、性別、性的指向、障がい、人格などに関わる言動を繰り返し、相手に不利益やダメージを与えること」とも書かれています。これらは、力関係の差があるところでよく起こります。

「教会ではありえない」「不要な議論」と言う人もいますが、京都教区では聖職者の児童虐待事件が起きました。京都教区で起きた事件だけでなく,残念ながら,東京教区の中でもこれまでハラスメントが起きています。

キリスト者であるわたしたちも、ハラスメントを起こしてしまう弱さや脆さをもっています。そのことを認識した上で,ハラスメントの被害者にも加害者にもならない共同体を目指すことが大切だと思います。あれもこれもハラスメントということだけが強調され,監視していくような教会ではなく,相手の権利を奪わないコミュニケーションのあり方を考え,一人ひとりの尊厳を大切にし、あらゆる暴力にNOと言う,そのような教会でありたいと願っています。

東京教区のハラスメント防止委員会には、「子ども専用電話相談」があり、臨床心理士である田島昌子さんが担ってくださっています。

子どもたちの声を直に聴こうという相談窓口が設けられたことは、とても有意義です。弱者、特に子どもたちをあらゆる暴力(ハラスメント)から守ることは、わたしたちの責任だと思います。

フィリピンとの交流　13人の集い

加藤　望

1月24日午後トリニティーハウスに小林史明司祭(九州教区・現在聖公会神学院教員)をゲストに迎え、お話をうかがった。フィリピンの神話や伝説の紹介、1998年のランベス会議で全聖公会の各教区の姉妹関係交流を奨励すべきとの決議がフィリピンとの交流を後押ししたこと、九州教区の担当司祭としてワークキャンプに5回参加し、中でも3日間で礼拝堂を建てる手伝いをした思い出、異文化を身近に体感することによって、聖書の言葉も身近に体感できたこと、はじめは小さな個人の想いと行動が輪を広げてゆくこと等、フィリピンとの交流を通して体験し、学ばれたことをビデオも交えて真摯に分かり易く語って下さった。

また、その後の意見交換で当教会のフィリピンプロジェクトの広報不足や継承者の課題も浮き彫りになった。同プロジェクトは2006年の春のワークキャンプ、秋のロンメル司祭の東京訪問、2007年のネット司祭の聖三教会訪問と説教以来人的交流が途絶えている。今後、在日フィリピン人支援(カパティラン)も視野に入れ、当教会及び東京教区の次世代にどのように受け継いでいけるかが問われるものの、実りある午後のひと時となった。

教会委員会議事録抜粋2009年10月～12月

<10月>

・信徒代議員選出検討委員会メンバー承認の件。現在の教会委員互選による選出方法を信徒の直接選挙によるものに変更する委員会を発足。
メンバーは、寺内安彦委員長、　田島信次兄、八幡眞也兄、尾澤うめ子姉、　本多峰子姉。
・教会委員選挙確認事項。今年度選挙管理委員は五十嵐美奈、江川素子、後藤務、砂田郁郎、千村雅信、中野誠、古川薫、名倉裕子の諸氏。
スケジュール。11月8日までに教会委員は各自被選挙人候補者40名ずつを選出。11月15日選挙管理委員公示　委員は被選挙人リストを作成。
12月6日選挙公示、投票開始。12月25日開票。
・東京教区第二回将来計画担当者意見交換会。宣教委員長の村上道夫兄が出席する。
・主教選挙特別委員会。山手グループからは聖マーガレット教会の三崎肇氏を推薦した。
・降臨節前の「光の礼拝」が11月28日午後6時から東京聖十字教会において行われる。◆
・宣教150周年記念黙想会を11月29日に行う。講師は福沢道夫司祭。◆
・バザー企画。「ひろげよう出会いとふれあい」のテーマ。本年は正門横に教会案内・質問コーナーを設け、来会者への応対を行う。
・財政担当者懇談会報告。教区財政委員より「教区分担金の算出方法は、現在は普通献金・感謝献金がベースだが、単年度の総収入をベースにすると変更したい」との提案があった。反対が多くあり、教区会までに再検討となった。
・宣教委員会インターネット分科会報告。催し向けの来会者用教会案内パンフレットを作成する。

<11月>

・クリスマス礼拝行事日程を決めた。12月24日第一聖餐式の開始時刻は23時とする。
・読書会「現代人はキリスト教を信じられるか」を2010年2月の第一主日に開始、以後毎月第一主日14時30分からトリニティーハウスで行う。
・教会委員選挙規則の日程にまつわる規則変更の有無の検討は、今年度の選挙管理委員に委ねる。
・11月23日第109(定期)教区会が開催される。
・バザー報告。東理夫委員長。外部の方にも参加いただいた。献品整理を日曜日に集中。献品の有効利用と、誰もが楽しめるバザーを目指した。
・会計報告。クリスマス献金の呼びかけを早めに行い、月約献金袋の改善を行いたい。
・宣教委員会インターネット分科会。パンフレットの作成、信徒へのメール配信方法を完了した。
・クリスマス礼拝行事。12月25日主教巡回日の愛餐会司会を田島信次氏に依頼する。
・メンテナンス報告。各所の照明、配線工事を実施。最大電力容量を下げるためには、この冬から夏にかけて冷暖房方法を見直す必要がある。
・教会でのコンサート。横浜聖アンデレ教会信徒の音楽会を許可。

<12月>

・信徒代議員選出検討委員会(寺内委員長)からの「2011年度より教区会信徒代議員を直接選挙によって選ぶ方法」を承認し、2010年2月の受聖餐者総会に教会委員会として提案する。
・2010年度受聖餐者総会は2月14日第二主日と決定した。
・バザー収益の献金先。アジア学院、アルディナウペポ、長谷川司祭指定外部献金、メルヘンコイノニア、山友会、浅草聖ヨハネ教会日曜給食、エリザベスサンダースホーム、山谷希望の家、山谷まりや食堂と決定。
・礼拝委員会報告。日課朗読者には事前の準備をお願いしたい。礼拝参加者増のため礼拝への熱意を高めるなどの方法を考えたい。
・宣教委員会インターネット分科会報告。教会案内をコンサートやクリスマスで活用してほしい。
・ぶどうの木報告。こどもとささげる聖餐式。1月2月は第3主日に行い、3月は後日検討する。
・メンテナンス報告。玄関の電気関係不具合を修理。台所ブレーカーセットの要望あり。避雷針のアース増強は来年度予算に計上する。
・信仰と生活委員会報告。砂田委員は4年の任期を終え退任となる。
・会計報告。赤字補填のため積立金を取り崩すかどうかは、12月12日の予算委員会で決定する。